

令和 6 年 2 月 22 日

人吉市議会議長 宮原 将志 様

厚生委員会委員長 徳川 禎郁

「市民と議会の意見交換会」実施報告書

このことについて、「市民と議会の意見交換会」を実施しましたので、人吉市議会「市民と議会の意見交換会」実施要綱第 8 条第 1 項の規定により提出します。

開催日時	令和 6 年 2 月 1 日（木）午後 7 時 00 分～午後 8 時 00 分
会 場	医師会館会議室
出席議員	【委員長】 徳川禎郁（統括・座長） 【副委員長】西 信八郎（司会者） 【委員】福屋法晴、井上光浩、村上恵一（記録者）
団体名	人吉市医師会
参加人数	3 名
テーマ	人吉球磨准看護学院の現状と看護師不足について、他
意見交換会の概要	【医師会の出席者】 医師会会長・友永和宏氏（豊永耳鼻科医院院長） 医師会副会長・高橋耕一氏（たかはし小児科内科医院院長） 人吉球磨准看護学院学院長・田中洋一氏（田中医院院長） （人吉市医師会事務局長・久本禎二氏、他事務局職員 2 名） 人吉市医師会会長・友永和宏様と徳川厚生委員会委員長からの挨拶の後、お互いの出席者紹介を行い、意見交換会を開始しました。 まず初めに、人吉球磨准看護学院学院長から学院の現状と看護師不足について説明が行われました。 人吉球磨准看護学院は昭和 31 年創立以来 2,286 名の卒業生を輩出し、人吉球磨地域の医療に貢献しており、現在、高校新卒者と既卒者の入学者の比率は 8 対 2 となっています。また、卒業後の地元就職率は高校進学者を含めて 6 0 %前後ということです。 この先 2025 年から団塊の世代の老化が進む 2040 年にかけての医療

	看護ニーズはピークを迎えることになり、看護師の対応も相対的に増加していくことが想定されます。これに対して、全国の医師会運営の準看護学院では、定員充足率不足が続いており、その運営は厳しいものとなっています。全国約6割の医師会運営の準看護学院では、自治体の補助を受けており、その平均額は455万円となっています。 人吉球磨准看護学院も人吉市より年間135万円の補助金をいただいているが、将来的に安定した運営が持続できるように、行政からのさらなるバックアップ体制を望むとのことでした。事例として、島根県浜田市の浜田市立医療センター看護学校では、ふるさと納税を財源に、県と市から年間2,000万円の補助金を交付されているとのことでした。 最後に、持続可能な運営システム確立のために、以下の4点を要望されました。 1 県域外からの学生に対する寮の確保。 2 変化する学生数に対応可能な補助金の柔軟な支給体制の確保。 3 運営状況の透明性の確保のために、今後、協議会を設置して行政と協議していきたい。 4 ふるさと納税の使用目的の項目に、人吉球磨准看護学院運営への助成も入れて欲しい。 更に、喫緊の課題である地域の周産期医療の体制強化については、助産師育成が大変重要であるとの説明もありました。 説明の後、フリートークのような形で会が進められ、多くの委員から、ふるさと納税の使用目的に地域医療の充実を設けることについては、ぜひ必要であり議会としても、本市に強く働きかけていくべきであるとの意見が大勢を占めました。また、人吉球磨准看護学院運営への助成については、人吉市からだけではなく、今後は人吉球磨広域での支援体制が必要であるため、他町村へも働きかけるべきであるという意見が出されました。更に、県域外からの学生に対する寮の確保の実現については、市営団地の空き室の利用なども含め早急に対応できるように、執行部に働きかけるべきであるとの考えを示しました。 最後に医師会側からは、今回のような意見交換会を定例化してほしいとの強い要望がありましたので、厚生委員会としても今後継続して開催していくことへの検討を確認し閉会しました。
--	---